

BCP維持管理研究会 2010年度 年間計画

1. 研究会名 BCP維持管理研究会

2. 座長名 深谷 純子

3. 副座長名 不在

4. 現在の参加人数 13名(平成22年7月31日現在)

5. 本年度の活動内容

BCP組織、維持体制に関する研究

訓練や教育を中心とした継続的に必要な取り組みに関する研究

BCP作成済みの企業の中には、被災時にBCPが実際に実行可能かどうか不安に思っているケースが見受けられる。一方で、毎年の訓練が簡素化、形骸化しており、一度作成されたBCPの見直しがされにくい状況も課題として挙げられる。

BCP担当者の維持管理に関するワークロードを減らすことで、毎年の訓練やBCP見直しが推進されるのではないかと、そのために必要な課題について研究を行う

6. 本年度の活動スケジュール

メーリングリストによる意見交換

月次での会合

外部講師を招いた勉強会(月次会合と併せて実施)

研究成果の文書化(プレゼンテーション、レポート等)

関連テーマに関するBCAO会員へのアンケートの実施

7. 今年度末の達成目標

(具体的に、例示:研究成果の中間報告書作成)

作成されたBCPを形骸化させず、レベルアップを図るための取組みとして、訓練のパターンと手法、評価方法、訓練シナリオの研究を行う。新型インフルエンザ研究会・訓練シミュレーションチームより引き継ぎ、地震など他のリスクにも応用展開する。

(ア) 訓練事例を収集と整理

(イ) アンケートの実施

(ウ) 訓練手法の考察

本部と地方の関係、それぞれの組織での役割、被災フェーズごとの体制など、BCPを運用する上での、効果的・効率的な組織について研究する。

- (ア) ドキュメント体系の整理
- (イ) グローバル組織での BCP 組織・体制・ドキュメント維持の在り方

現行の BCP の有効性の検証を行うための、訓練の評価の在り方や評価ポイントについての研究を行う。BS 等の認証取得を目的とした監査は、研究の対象外とする。

- (ア) 金融庁の監査マニュアルなど、現在使用されている評価軸の研究
- (イ) BCP 評価項目の洗い出し

BCP 維持をサポートツールに関するスタディを行い、BCM 担当者の負荷軽減や効果的な BCP 運用についての研究を行う。ツールベンダーを招いた説明会の実施。

- (ア) BCP 維持管理ツールの研究
- (イ) 発動時のコミュニケーションツール

ストリートワイド訓練に関する海外の事例調査研究を行い、自社だけの訓練からより広い範囲での訓練実施に向けての課題を整理する。(本年度は見合わせ)

以上